

桜島防災訓練に在住外国人が初参加！ ～在住外国人が担い手として活躍できるために～

公益財団法人鹿児島県国際交流協会 交流相談員 山下 純子（第19期多文化共生マネージャー）

はじめに

今から101年前の1914年1月12日に「桜島大正大噴火」が発生し、本県では58人の犠牲者が出ました。その教訓をもとに毎年、鹿児島県・鹿児島市主催で「桜島火山爆発総合防災訓練（以下、桜島防災訓練）」が実施されており、2014年度で45回目を迎えました。

県内でも大規模な防災訓練であり、2014年度は、2015年1月9日に実施され、島内住民を含め自治体、消防、警察、民間団体など141団体、約4,500人が参加しました。

桜島火山爆発総合防災訓練講座の実施 ～クレア「多文化共生のまちづくり促進事業」～

当協会ではこれまで独自で在住外国人を対象とした「防災基礎知識講座」を行ってきました。2014年度はクレアの助成事業を活用し、「桜島防災訓練」の一環として、公益財団法人鹿児島市国際交流財団と共催で、在住外国人を対象に災害に巻き込まれた際の対応などについて学ぶ「桜島火山爆発総合防災訓練講座」を実施し、初めて留学生などの在住外国人総勢8か国111人が参加しました。

島外避難訓練・健康相談訓練～桜島防災訓練の様子～

海外から桜島への増加する観光客を見据えて、「外国人旅行者への対応訓練」を実施しました。

「桜島の噴火警戒レベルが3（入山規制）から5（避難）に引き上げられ、市が避難指示を発令後、大噴火に伴い鹿児島湾を震源とする震度6強の地震が起

きた」と想定し、当協会などによる「外国人旅行者への島外避難訓練」の後、鹿児島県看護協会の協力による「避難所健康相談訓練」を実施しました。



島外避難訓練の様子（フェリー乗船前）



桜島からの脱出を想定した「島外避難訓練」では、実際にフェリーに乗船し、船内では緊急時の救命胴衣の着用訓練が行われました。



桜島フェリーでの救命胴衣着用訓練の様子

避難所に到着後の「避難所健康相談訓練」では、鹿児島県看護協会の災害支援ナースが語学ボランティアの通訳を介して、名前や被災状況、健康状態やけがの程度などの聞き取り調査および血圧測定を実施しました。



避難所健康相談訓練の様子

健康相談訓練の実施に当たっては、事前に桜島防災訓練へ参加する在住外国人に対し、「避難所へ逃げる際に転んでしまっ

て打撲をしている気がする。とても痛い」、「ヒンドゥー教徒は牛肉が食べられないため、避難所での食事を配慮してもらえるか心配である」といった相談内容を持つ被災者役を想定した練習を行い、本番に臨みました。

「在住外国人のための日本語・日本理解講座」・「おしゃべりひろば」より参加者を発掘 ～外国人とのつながり～

当協会は、日本語の初級者を対象とした「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を日本語学校への委託事業として実施しており、2014年度で9年目を迎え、延べ約1,000人が受講しています。当講座では、日本語学習だけでなく、鹿児島県の地域社会で生活する上で必要となる習慣や生活文化についても理解を深めていただいています。

また、2014年度から日常会話が可能な外国人を対象とした「日本語サロンおしゃべりひろば」を開設し、消防や警察、観光や介護に携わっている方、日本文化に精通している外国人を毎回ゲストとして招き、フリートークを通して、参加者の日本語の向上と外国人同士のネットワークの構築を図っています。

これらの事業は当協会の多文化共生地域づくりの柱であり、さまざまな事業への架け橋となっており、桜島防災訓練でも語学ボランティアや参加者として積極的に協力していただきました。

鹿児島市社会福祉協議会の協力を得て ～ボランティアとして活躍するために～

鹿児島市社会福祉協議会ボランティアセンターの協力のもと、桜島防災訓練の事前勉強会として、同センター主催の「災害ボランティアセンター運用訓練」に語学ボランティアも参加しました。

例えば「市内を襲う集中豪雨があり、河川の氾濫により、住宅や店舗の床上浸水・床下浸水や土砂崩れがあり大打撃を受けた。多くの市民が、避難生活を余儀なくされ、高齢者や障がい者や乳幼児のいる世帯などへのボランティアニーズが出始めている」と

いう想定のもと、避難所での活動訓練を行いました。

ここでの訓練は、ボランティアセンターの運用における「ニーズ係・マッチング係・避難者係・ボランティア係」の役割について、また被災者支援の活動のあり方について、考えるきっかけとなりました。

被災して困るのは外国人だけではなく、高齢者や障がい者、妊婦などと同じであり、外国人はマイノリティの一部であることを認識しました。またその上で、語学ボランティアである前に、まずボランティアとして何ができるかを考えることを学ぶ良い機会となりました。このような事前勉強会を経験したことが桜島防災訓練に活かされたと考えています。

成果および課題と展望

今回、県・市において新しい取り組みとして、これまでの日本語のみによる避難勧告などの防災行政無線に英語での放送が加えられました。参加した在住外国人からは、「英語の放送を聞いて安心した」、「今起きている状況をすぐに把握できた」との声が寄せられました。

多くの関係機関が参加し実施する防災訓練に、在住外国人が初めて「地域住民」として参加し、「外国人住民」の存在を関係機関の方々に認識していただいたことは大きな成果となりました。また、火山のない国から来た外国人や日本に住み始めたばかりの外国人の中には、桜島を「鹿児島の美しいシンボル」と感じる一方、「いつ爆発するか分からない恐ろしいもの」、「頻繁に降る灰により健康へ影響を与えるもの」と感じ、不安や脅威を感じている人も少なくありません。その意味でも今回のような防災訓練への参加を継続的にを行い、防災への知識を得る機会を増やすことにより、外国人にとってもより安心して暮らせる多文化共生の地域づくりができると思います。

また、災害時に被災した外国からの観光客および在住外国人の不安を解消するためには、彼らの文化的背景を認識し、彼らの母国語を理解できる人の力がより必要であると感じます。そのため、鹿児島に在住する留学生などを含めた外国人が担い手となり、活動していけるよう関係機関とさらに連携を深め、多文化共生の推進に努めていきたいと思っています。